

令和7年度事業報告

概 要

令和7年度は、梅雨が短く、記録的猛暑が続いたことに加え、米や野菜などの物価高騰により社会経済情勢は大変厳しい状況にあり、国民の生活にも大きく影響しました。

このような中、令和7年度の請負・委任の事業実績は、2億82,996千円で令和6年度比97.4%と微減となり、就業延べ人員についても1,925人減の65,935人日となりました。これは、植木消毒作業の終了や猛暑対策としての就業制限、受注中止措置の影響によるものと考えられます。

派遣事業においても、前年度より308千円減の約11,910千円と微減となりました。

今後も経済状況等を見極めながら請負事業や派遣事業の拡大に取り組んでいきます。

重要課題としていた会員拡大については、ホームページ、SNSでの情報発信、ハローワークとの連携、全戸配布のフリーペーパー広告での募集、宮原坑フェスタの開催、商業施設での会員によるチラシ配布等に取り組みましたが、目標の543人に対し、95.9%の521人となり、わずかに目標に達しませんでした。

しかし、女性会員の集いであるカメラアの会による健康体操やおしごと説明会の実施により、女性会員は微増しました。

今後も会員拡大に取り組むとともに就業拡充を図っていきます。

傷害事故は、8件で、残念ながら前年の1件より大幅に増加しましたが、賠償事故は、5件となり前年の10件より半減しています。

令和8年3月に開催した安全就業促進大会では、安全対策に向けた取り組みを再確認し、周知徹底を図りました。また、警察署による交通安全講話も実施しました。

今後も事故ゼロを達成するために、安全対策の強化・周知徹底、声かけ等に取り組めます。

事業実績

一 雇用によらない臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業機会の確保・提供事業、社会参加のための支援（公益目的事業）

1 就業開拓提供等事業

1 事業実績（受託＋独自＋総合事業）

	令和7年度実績	前年度比	計 画
			達成率
会 員 数	5 2 1 人	8 人減	5 4 3 人
			9 5 . 9 %
就業実人員	4 6 1 人	1 7 人減	5 2 7 人
			8 7 . 4 %
就業延人員	6 5 , 9 3 5 人日	1 , 9 2 5 人減	7 7 , 8 5 0 人日
			8 4 . 6 %
就 業 率	8 8 . 5 %	1 . 9 ポイント減	9 0 %
			9 8 . 3 %
事 業 収 入	2 8 2 , 9 9 6 千円	7 , 4 8 7 千円減	3 0 7 , 8 0 0 千円
			9 1 . 9 %

（1）受託事業（一般）

高齢者の就業機会を確保し、高齢者の希望や能力に応じて、グループ就業やローテーション就業などを行い、高齢者に臨時的かつ短期的又は軽易な就業機会の提供を行いました。

令和7年度	就業実人員	就業延人員	契約金額
計 画	4 9 2 人	7 5 , 0 0 0 人日	3 0 0 , 0 0 0 千円
実 績	4 2 1 人	6 3 , 9 9 2 人日	2 7 8 , 3 6 2 千円

（主な就業分野）

- 事務（文書作成、受付事務、賞状・宛名書き等の筆耕等）
- 技能（剪定、大工、襖・障子・網戸張替え、刃物砥ぎ等）
- 管理（小・中学校、地区公民館、駐輪場、イベント会場での駐車場整理等）
- 配布（市広報誌、チラシ・フリーペーパー配布等）
- 屋外・屋内作業（屋外・屋内清掃、除草、農作業等）
- 福祉・家事援助サービス（家事手伝い、育児支援等）

（2）独自事業

地域のニーズに対応するために、独自の創意と工夫により次の事業を実施しました。

○ リサイクル事業

市民から提供された衣類、家具、家電製品等の再生・販売、また、学校給食や一般家庭の廃油を原料とした石けんの製造・販売を行いました。

この事業により、ごみの減量化と資源の有効活用など市民の3R活動を推進しました。

○ 宮原坑ショップ事業

世界遺産宮原坑で、来場者へ地元特産品及び会員手作り品等を販売しました。

令和7年度	就業実人員	就業延人員	契約金額
計 画	30人	2,500人日	7,000千円
実 績	35人	1,656人日	4,108千円

(3) 介護予防・日常生活支援総合事業

令和2年度より、市の介護予防・日常生活支援総合事業の指定事業所として、掃除、買い物等の生活支援サポートを行う基準緩和型訪問サービスを始めました。

令和7年度	就業実人員	就業延人員	契約金額
計 画	5人	350人日	800千円
実 績	5人	287人日	526千円

二 雇用による臨時的かつ短期的な就業又はその他の軽易な業務に係る就業機会の確保・提供事業（公益目的事業）

1 職業紹介事業

地域の高齢者に、臨時的かつ短期的又はその他の軽易な業務の範囲における就業を紹介するとともに、地域事業者の求人等の情報収集及び提供を行いました。

2 労働者派遣事業

地域における人手不足と高齢者が求める就業形態の多様化に応えるため、臨時的かつ短期的又はその他の軽易な業務の範囲において、労働者派遣事業を実施しました。

令和7年度	就業延人員	契約金額
計 画	3,800人日	12,000千円
実 績	3,001人日	11,910千円

（主な就業分野）

高齢者施設等の配膳業務、送迎業務、食品包装業務、商品整理等

三 高齢者の就業機会の確保や社会参加活動を発展・拡充するための普及啓発、情報提供、研修・講習、相談・助言、調査研究等（公益目的事業）

1 普及啓発事業

(1) 広報活動

- ① 月2回の入会説明会を開催し、高齢者の生きがい就労や社会参加活動を紹介するとともに、全戸配布の無料情報誌に、センター事業の紹介や会員募集の広告を掲載しました。また、ハローワークの就職支援セミナーでセンターの紹介を行いました。
- ② 毎月10日の十日市や大牟田観光プラザへのリサイクル品や会員手作り品の出品、11月の宮原坑フェスタの開催や「100円玉笑店街」への参加等で、市民へのセンター事業の普及啓発を行いました。

- ③ 10月の普及啓発促進月間に、市及び市議会への支援要請行動を行うとともに、地元新聞社へセンター事業の情報提供やホームページにリアルタイムの求人情報等を掲載し、情報発信を行いました。
- ④ 県シ連による女性会員交流会に会員4人、職員2人が参加し、オハリコクラブの手作り商品の販売や、ハギレ布リース作り体験会を実施しました。

(2) 社会参加・ボランティア活動

- ① 夏祭り清掃奉仕活動 7月28日(月) 会員及び職員 45人参加

2 安全・適正就業推進事業

(1) 安全就業の推進

令和7年度は、「安全は全てに優先する」を基本とした「安全就業促進大会」を開催しました。また、県シ連安全就業促進大会への参加、安全・適正就業委員会の開催、安全パトロールの実施等を行いました。

安全パトロールは、計12回(剪定作業現場19ヶ所、除草作業現場21ヶ所)実施をしました。また、職群別定例会では事故事例についての周知分析を行うとともに、夏場の熱中症予防などの注意喚起を行いました。

今年度の事故発生状況は、傷害事故が8件、賠償事故が5件発生しました。

事故の原因を分析し、再発防止を図ることが必要です。事故の内容は以下のとおりです。

【傷害事故】 8件 (前年比+7件)

日時	性別	年齢	事故	職種	発生状況・原因・対策
4/8 (火) 14:15	女	81	就業途上	屋内 清掃	発注者宅から自家用車で帰宅していた際、駐車場で運転を誤り、ブロック塀に衝突した。ハンドルで胸を強く打ち、肋骨を骨折した。
			肋骨骨折		(事故原因) 本人は体調が悪く、当日の就業を断って帰宅していた際の事故。事故後に検査すると高熱があり、運転中は意識が朦朧としていた。
			通院7日		(再発防止策) 体調が悪い場合は無理して現場まで行かず、発注者や作業リーダーに連絡した上で休養を取る。また、体調が悪い場合は運転を控えるようにする。

4/17 (木) 11:00	女	72	就 業 中	屋 内 清 掃	会館内の清掃業務をしていた際、階段5段目から足を踏み外し、踊り場まで転落し骨折した。
			上腕骨折		(事故原因) 現場は薄暗く、雑巾とモップで両手が塞がれていたため、バランスを崩した。
			通院42日		(再発防止策) 足元が見えづらい場合は、電気をつけて作業をする。階段を移動する際は、足元の安全確認に気を配る。
6/7 (土) 15:00	男	82	就 業 途 上	駐 車 場 整 理	バイクで帰宅途中、点滅信号のある交差点を直進しようとしたところ、左からの走行車と衝突し、転倒した。
			下肢擦過傷 4針縫合		(事故原因) 交差点で右折した対向車によって、会員の左側が死角になっており、左から向かってくる車両に気づけなかった。
			入院45日 通院8日		(再発防止策) バイクや自転車での転倒は大怪我に繋がる恐れがあることを十分理解し、対向車のみならず、左右からの走行車の確認も怠らず安全運転を心掛ける。
7/29 (火) 10:30	男	77	就 業 中	植 木 剪 定	左手(利き手)でハンドチェーンソーを使用し、枝を切っていたところ、刃が跳ね返り、右手を負傷した。
			右手切創 7針縫合		(事故原因) 狭い場所で木の裏側から手を伸ばし、無理な体勢で作業をしており、枝や葉が手元で見えにくい状況であった。防刃手袋は装着していなかった。
			通院10日		(再発防止策) 狭い場所や手元の見えにくい状況ではチェーンソーではなく、鋸を使用する。
9/16 (火) 16:00	男	69	就 業 中 左膝骨折	除 草	除草作業の現場で、両手に作業道具を抱えた状態で高さ約 80cmのフェンスを跨ごうとした際、膝がフェンスに引っ掛かり転倒し、左膝を地面に強打した。

			通院7日		(事故原因) 草で足元が見えにくい状況の中、両手が塞がった状態で無理にフェンスを跨いだため。 (再発防止策) 他の作業会員と協力して荷物を運搬するなどして、無理な移動はしない。また、作業現場での転倒事故を防ぐため、作業の動線は整理整頓を心掛ける。
11/28 (金) 11:30	男	69	就業中 左手首骨折 通院6日	清美班	除草作業の切りくずを回収するため軽ダンプへ積み込み作業をしていた際、足を滑らせ軽ダンプの荷台から地面に転落した。当日は痛みがなかったが、翌日受診したところ、骨折が判明した。 (事故原因) 軽ダンプのあおり部分以上の高さに積み上げた草を無理に足で踏み込んだことにより、バランスを崩した。 (再発防止策) 軽ダンプのあおり以上に積み上げた草を踏み込む行為を禁止する。
12/22 (月) 13:30	男	65	就業途上 全身打撲 通院12日	除草	バイクで帰宅途中、並走していた軽自動車は突如左折したため、巻き込まれ転倒した。 (事故原因) 軽自動車の左後方確認が不十分だった。また、会員も車両の左折を予測していなかった。 (再発防止策) バイクや自転車での転倒は大怪我に繋がる恐れがあることを十分理解し、並走、対向車のみならず、左右からの走行車の確認も怠らず安全運転を心掛ける。
1/23 (金) 14:00	女	74	就業中 足首骨折 通院28日	広報配布	市の広報紙を各世帯に配布中、ポストへ投函後、階段を降りる際に最下段で階段を踏み外し、右足を挫いた。 (事故原因) 階段の段差を十分に確認していなかった。 (再発防止策) 各世帯のポストは敷地内外に設置されているため、投函の際は、足元に十分気を付ける。

【賠償事故】 5件 （前年比－5件）

日時	性別	年齢	事故	職種	発生状況・原因・対策
5/23 (金) 9:00	男	77	就業中 車両 窓ガラス 破損	除草	草刈機で作業中、石を飛ばし、作業現場の横を走行していた車両の窓ガラスを破損させた。また、石飛により車体の塗装も剥がれている部分があった。
					(事故原因) 現場に面している道路が機械作業会員から向かって右手(石が飛びづらいとされている方向)にあり、道路まで距離があったため、防護ネットを張らず作業を行っていた。
					(再発防止策) あらゆる可能性を考慮し、防護ネットを必ず張る。また、張るだけで満足せず、石が抜ける隙間がないか、就業会員全員で確認する。
5/30 (金) 10:00	男	76	就業中 建物破損	広報 配布	ポストに広報紙を投函する際、投函口が狭く、投函に四苦八苦していたところ、ブロック塀の最上段に埋め込まれていたポストとその右隣のブロック塀が敷地内に倒れ落ちた。その際、ブロックが玄関前の支柱に当たり傷を付けた。
					(事故原因) 古いブロック塀の埋め込み式のポストに広報紙を押し込んだため。
					(再発防止策) ポストには色々な形状があり、特にブロック埋め込み式はブロックが劣化している場合がある。投函の際は細心の注意を払い、無理をして押し込むようなことのないようにする。
7/9 (水) 10:30	男	70	就業中 給水管破損	植木 伐採	直径 40 センチほどの樹木の伐採をしていた際、伐採した切り株が、家屋から伸びていた給水管に当たり、破損させた。

					(事故原因) 伐採した切り株のコントロールができず給水管に当たってしまった。また、シルバーの安全就業基準で直径30cm以上の植木伐採は禁止としているが、発注者からの依頼を断れず、作業に至ったことが原因。 (再発防止策) 伐採した切り株が周囲に当たって破損しないよう、ロープ等で倒す方向をコントロールする。また、安全就業基準で決められたルールを守って作業するようことを徹底する。
7/11 (金) 9:00	男	78	就業中 車両 窓ガラス 破損	除草	草刈機で作業中に石を飛ばし、隣の敷地に駐車してあった車両の窓ガラスを破損させた。当日は会員も破損に気づかず、作業翌日、被害者から連絡があり、発覚した。 (事故原因) 防護ネットを設置していたが、ネットを超えて石が飛んでしまった。 (再発防止策) 付近に駐車してある車両があれば、可能ならば移動してもらおう。それが難しい場合は、防護ネットを安全な高さまで張り、石飛対策を行う。また、作業後も付近の車や窓ガラスを破損していないか、就業会員全員で確認する。
1/27 (火) 22:00	男	77	就業中 電動シャッター 破損	施設 管理	管理している建物の玄関の電動シャッターを下ろしていたところ、玄関に設置されていた看板に気づかず接触し、シャッターを破損させた。 (事故原因) 玄関周りやシャッター周辺の確認を遠目からの目視のみとしたため、シャッターの障害となった看板に気が付かなかった。 (再発防止策) 玄関や各部屋の入口、門扉は必ず、その場所まで行き、異常がないか確認して作業を行う。

3 相談事業

(1) 就業相談の実施

就業を希望する地域の高齢者に、毎月2回の入会説明会及び毎月1回の会員登録説明会を行うとともに随時の就業相談に対応しました。

4 研修・講習事業

① 安心・安全講習

県シ連安全就業推進員研修会に職員1人が参加しました。

② 接遇講習

利用者の信頼と満足を得るために、会員へのクレームに対する注意及び接遇の指導を行いました。

③ 剪定講習

新入会員を対象に、服装、道具、安全対策等についての座学研修を実施しました。(開催8回、研修会員10人)

④ 除草講習

新入会員を対象に、服装、道具、安全対策等について、座学及び実技講習を実施しました。(開催8回、研修会員8人)

⑤ 職員研修会

筑後ブロック業務担当職員研修会が、11月13日(木)に開催され、職員2人が参加し、他センターとの意見交換を行いました。

筑後ブロック会計担当職員研修会が、11月27日(木)に開催され、職員2人が参加し、他センターとの意見交換を行いました。

全シ協会員拡大・就業開拓会議、情報交換会議に参加しました。

⑥ 役員研修会

県シ連定時総会・役職員研修会に2名参加しました。

5 調査研究事業

公益社団法人として会員増対策と経営の安定化を進めるために、福岡県シルバー人材センター連合会からの情報収集及び筑後ブロックでの情報交換を行いました。